

どっちが好み？  
ご当地自慢  
対決

# 魅力ハッケンMAP

DISCOVER! SUGARU STRAIT AREA



北海道新幹線開業で、もつと近くなる！  
知らなかった津軽海峡交流圏の  
魅力を探しに行こう！

## 津軽海峡交流圏観光のお問い合わせは各観光協会等へ

- | 道南                                      | 青森県                                     |
|---|---|
| ■函館市/函館国際観光コンベンション協会 TEL.0138-27-3535   | ■青森市/青森観光コンベンション協会 TEL.017-723-7211     |
| ■北斗市/北斗市観光協会 TEL.0138-74-3566           | ■弘前市/弘前観光コンベンション協会 TEL.0172-35-3131     |
| ■松前町/松前町ツーリズム推進協議会 TEL.0139-42-2726     | ■八戸市/八戸観光コンベンション協会 TEL.0178-41-1667     |
| ■福島町/福島町観光協会 TEL.0139-47-3004           | ■黒石市/黒石観光協会 TEL.0172-52-3488            |
| ■知内町/知内観光協会 TEL.01392-5-7311            | ■五所川原市/五所川原観光協会 TEL.0173-38-1515        |
| ■木古内町/木古内町観光協会 TEL.01392-2-2046         | ■十和田市/十和田市観光協会 TEL.0176-24-3006         |
| ■七飯町/七飯大沼国際観光コンベンション協会 TEL.0138-67-3020 | ■むつ市/むつ市観光協会 TEL.0176-59-2311           |
| ■鹿部町/鹿部温泉観光協会 TEL.01372-7-3500          | ■外ヶ浜町/外ヶ浜町産業観光課 TEL.0174-31-1228        |
| ■森町/森観光協会 TEL.01374-7-1286              | ■鯉ヶ沢町/鯉ヶ沢観光協会 TEL.0173-72-5004          |
| ■八雲町/八雲観光物産協会 TEL.01377-62-2111         | ■深浦町/深浦町観光協会 TEL.0173-74-3320           |
| ■長万部町/長万部観光協会 TEL.01377-6-7331          | ■西目屋村/目屋観光協会 TEL.0172-85-2800           |
| ■江差町/江差観光コンベンション協会 TEL.0139-52-4815     | ■中泊町/中泊町水産観光課 TEL.0137-64-2111          |
| ■上/函町/上/函町観光協会 TEL.0139-55-2121         | ■青森県観光連盟(観光情報センター) TEL.017-734-2500     |
| ■厚沢部町/厚沢部観光協会 TEL.0139-64-3738          | ■おおひろ観光情報センター(新青森駅) TEL.017-752-6311    |
| ■乙部町/乙部町産業振興労働観光課 TEL.0139-62-2311      | ■弘前市観光案内所(弘前駅) TEL.0172-26-3600         |
| ■奥尻町/奥尻観光協会 TEL.01397-2-3456            | ■はちのへ総合観光プラザ TEL.0178-27-4243           |
| ■今金町/今金町観光協会 TEL.0137-82-3561           | ■三沢市観光案内所(スライプラザミササキ) TEL.070-5621-6100 |
| ■せたな町/せたな観光協会 TEL.0137-84-6205          | ■七戸町観光交流センター TEL.0176-51-6100           |
|   | ■むつ市観光案内所(下北駅前) TEL.0175-34-9095        |

発行 北海道総合政策部交通政策局新幹線推進室 札幌市中央区北3条西6丁目 TEL.011-231-4111(内線23-816)  
青森県企画政策部交通政策課 青森市長島1丁目1-1 TEL.017-734-9152(直通)



**道南エリア** あっさりシンプルなのに奥が深い味わい  
**函館ラーメン**  
函館の人気グルメといえば、あっさり塩味の函館ラーメン。函館ラーメンの一番の特徴は、すっきりとした透明なスープです。シンプルなのに深い味わいがあり、つい最後まで飲み干してしまうという人が多いのも納得です。函館にラーメンが登場したのは1884(明治17)年のことで、当時の新聞に「南京そば15銭」という広告が載っています。現在では市内に約150店のラーメン店があり、歴史と伝統をベースにしたそれぞれの味を競っています。

道南 vs 青森 **うまいもの対決 VS 食べたい! ラーメン**

**青森エリア** 青森県民が昔々からこよなく愛する心の味  
**煮干しラーメン**  
日本有数のラーメン消費量を誇る青森県。その津軽地方で愛されている伝統的な青森ラーメンは、さっぱりとした煮干しラーメンが特徴です。海産物に、煮干しが手に入りやすかった津軽地方では、独自の煮干しラーメンが生まれ、大量の煮干しを使い、ていねいに炭汁を取って長時間炊き込んだスープはまさに絶品。昔ながらの味に加え、さまざまな技法や材料を使った進化形まで、多彩な煮干しラーメンが味わえます。



**道南エリア** 日本で最初! 醸造でつくる個性派ワイン  
**奥尻ワイナリー**  
奥尻島の「奥尻ワイナリー」は、日本で最初の醸造ワイナリーです。奥尻島でブドウ栽培が始まったのは1999(平成11)年のこと。台風や塩害などの対策に試行錯誤を重ねてワイン専用品種の栽培を本格的に開始。2008(平成20)年にワイナリーが設立され、翌年に初出荷を迎えました。緑豊かな環境の中、日本海の潮風を受けて育ったブドウはミネラルが豊富で、ワインにするに余韻に潮の香りが出るのが最大の特徴。まさに、奥尻島ならではの個性のあるワインです。

道南 vs 青森 **ワイナリー対決 VS 美味しいワインで乾杯!**

**青森エリア** 本州最北端ワイナリーの「下北ワイン」  
**サンマモルワイナリー**  
下北半島にある「サンマモルワイナリー」は、本州最北端のワイナリー。1999(平成11)年にワイン用ブドウの試験栽培が始まり、しばらくは地元産のブドウを山梨県のワイナリーへ運んで醸造してきました。2007(平成19)年10月にワイナリーが完成し、念願の地元産ワイン「下北ワイン」の醸造がスタートしたのです。白ワイン「下北ワイン カン2013」が、国際ワイン審査会「ジャン・ワイン・チャレンジ」で金賞を受賞するなど、その美味しさが高く評価されています。



**道南エリア** 日本を代表する民謡の一つ  
**江差追分**  
北海道を代表する民謡と言えば江差追分。追分節は、江戸時代から信州中山道で唄われた馬子唄が越後で船歌として唄われるようになり、それが北前船で江差に運ばれてきたものです。多くの唄い手によって唄いつづけてきた江差追分のソドを、全国から運び込まれた唄い手が集い合う「江差追分全国大会」は、1963(昭和38)年から続く一大イベント。江差町の「江差追分会館」では、全国大会優勝者や師匠の唄声を百数十ホールで聞くことができます。

道南 vs 青森 **伝統文化対決 VS これぞ日本の心**

**青森エリア** 太極が奏でる音色で津軽の風土を表現  
**津軽三味線**  
津軽地方で「ボサマ」と呼ばれた盲目の芸人たちが始めた「門付け」が元になっている津軽三味線。幕末の芸人「仁太坊」が、それまで地味だった三味線に革新的な奏法を取り入れ、現在の津軽三味線の礎を築いたといわれています。三味線の中でも太くて重い「太極」が使われ、津軽地方の自然や風土を表現する多彩な音色を奏でる津軽三味線は、現代では独奏楽器として人気を集めています。



**道南エリア** 開湯800年! 北海道最古の温泉地  
**知内温泉**  
道南の知内町にある知内温泉は、開湯800年の歴史を持つ北海道最古の温泉地です。町に伝わる「大野日伝日記」では、1247(宝治元年)年に砂金掘りの様子によって発見されたと伝えられています。松前藩によって整備され、歴代の松前藩主も訪れた歴史の湯は、特にやけどや骨髄痛への効能が高いと評判で、現在でも湯治場として多くの人が訪れます。山間の古い湯治場の風情を残す湯湯で、5か所もある源泉のかけ流しを満喫しませんか。

道南 vs 青森 **温泉対決 VS いい湯でほっこり**

**青森エリア** 千人風呂で知られる昔ながらの湯治場  
**酸ヶ湯温泉**  
酸ヶ湯は三百年の歴史がある温泉宿で、八甲田の主峰・大岳の標高約900メートルの高地にあります。昔ながらの風情ある総じり造りの大浴槽「ヒバ千人風呂」が有名で、160室もの浴室には、熱湯、冷湯、湯、湯、湯など4つの源泉の異なる浴槽があります。湯上りの豊島、冷たさ、古くから湯治に使われてきた泉質は、「療養に適した温泉」として効能が認められており、1954(昭和29)年には「国民保養温泉地第1号」の指定を受けました。



**道南エリア** 日本海に奇と夕陽の美しい風景が続く  
**日本海追分ソーランライン**  
函館から小樽まで続く海岸線は、ルート上に北海道の民謡「江差追分」と「ソーラン節」の発祥の地があることから「日本海追分ソーランライン」と呼ばれています。船からウエーブが見えるほど透明度の高い海と、ユニークな名前がつけられた奇岩などの絶景ポイントが多数点在する。ドライブには最高のシーサイドラインです。ルートには北海道の歴史と伝統を感じさせる観光スポットも多く、また日本海に沈む夕陽の美しさは格別です。

道南 vs 青森 **眺望対決対決 VS 大自然の造形美を堪能!**

**青森エリア** 津軽半島唯一の眺望が広がるワインディングロード  
**電泊ライン**  
津軽半島の最北端、小泊から龍飛崎までを結ぶ「電泊ライン」は、全長約20kmのワインディングロード。雄大な日本海の眺望が楽しめる海岸線から、つらつらの山道へと続く道は、ドライブの醍醐味が堪能できると人気が高いロードです。特に、小泊側は急カーブの連続で、曲がるたびに海と山の眺めがめまぐるしく入れ替わります。龍飛崎や北海道、十三瀬や岩木山も見晴らせる展望台「龍歌台」からの眺望は、津軽半島唯一と呼び声も高い絶景です。



**道南エリア** 250種の桜が1ヶ月間わたって咲き誇る  
**松前城**  
松前は、日本最北かつ北海道唯一の城下町です。十七世(13代)藩主の松前宗広によって1854(安政元年)9月に建てられた福山城(松前城)は、日本最後の旧式築城として国宝にも指定されました。残念ながら1949(昭和24)年に焼失し、現在の天守閣は1961(昭和36)年に再建されたものです。松前は全国でも指折り桜の名所としても知られ、城下から寺町、公園などに約250種1万本以上の桜が咲き誇り、約1ヶ月間も見どころが続きます。

道南 vs 青森 **城と桜対決 VS 日本の美を感じる春へ!**

**青森エリア** 弘前藩の歴史と美しい桜を楽しむ春  
**弘前城**  
藩政時代に津軽家の居城だった弘前城。城内に現存する天守、櫓3棟、城門5棟はいずれも重要文化財に指定されています。現在は弘前公園として親しまれており、春になるとソメイヨシノを中心に約50種類2600本の桜が咲き誇ります。西澤にある桜のトンネルやライトアップされた夜桜のあやかざなど、多くの花見客を魅了する日本有数の桜の名所です。2015(平成27)年現在、100年ぶりの石垣修理が進んでおり、曳屋工事などで天守を移動するため、今の景色が再び見られるのは約10年後です。

